

プレイセンターにじっこ 参加者の声

2025年4月～2026年3月



Families growing together

家族と一緒に成長する



認定NPO法人 子どもと文化のひろば
ふれいおん・とかち



プレイセンターってなあに？

プレイセンターは、“家族と一緒に成長する”という理念のもと、ニュージーランドで60年以上の歴史を持つ「親たちによる幼児教育の活動」。子どもも親も楽しみながら共に成長していくことを目指し、0歳から就学前までの子どもに「自分で選ぶあそび」を、親に「親のための学習」を提供し、子どもと親の両方を支援する。

《あそび》

“あそび”という言葉は、プレイセンターでは子どものあらゆる自発的な活動を指す言葉として使っている。子どもはあそびを通じて、感情や想像力を発達させ、言葉を覚え、友達を作り、世界について学ぶ。プレイセンターでは、子ども自身がやりたい時にやりたいあそびを選ぶことができる。

《親のための学び合い》

親がプレイセンターの理念を学び、子どもたちのあそびをサポートするために必要な知識や方法を身につける。誰もがみんなに役立つ何かを持っているという考えに基づき、お互いの経験や感情を持ちよる、参加・協力・実践型の学び合いの場である。

《協働運営》

プレイセンターは親たちによって運営されるが無理なく楽しく進められるよう、子育て親育ちに関する専門知識を学んだスーパーバイザーがサポートする。参加するすべての大人が協力し合い、みんなで場づくりに関わることを目指している。



プレイセンターにじっこ

日時：毎週水・金曜日 10:00～13:30

毎月第2土曜 10:00～12:30

会場：ふれいおん・とかち
帯広の森・はぐくむ、他

対象：未就学児の親子（会員制）

月会費 1,100円

※ふれいおん・とかち正会員費として

参加メンバーに【印象に残っていること、学んだことや気づいたこと、気になっていること等】を聞きました。

あそび

- ・自由に過ごせること。
- ・ただ遊ばせるじゃなくて、目的意識が少しだけ加わることで、より子ども達の様子をみる視点になってよい。
- ・すいかわり、焼き芋会 季節感があって良い、個人ではなかなかやりづらい事を皆で出来るのが良い。
- ・外のラズベリーを喜んで食べていたこと。
- ・にじっこに入るまで、子どもと遊ぶこと、そもそも「あそぶ」ということが分からなくて本当に困っていました。子どもに対しても、あれこれ考えすぎて、これはまだ早い、できない、どうせ〜、と勝手に決めつけていたと思います。勇気を出してにじっこに入ってみたら、そこにある場やもの、そこにいる子どもたちや親たちから良い刺激を受けて、子どもは好きに動き出しました。それまで子どもが靴を履くのを嫌がっていたので歩いて散歩に行くこともなかったのに、初めての森で何事もなかったかの様に靴を履き歩き回り出したときは本当に驚きました！みんなが声を掛けてくれて、私にもにじこの活動が楽しくなってきた、段々と親子ともに生活にハリも出てきました。私自身そんなつもりはなかったけど、産後約1年で知らぬ間に心身ともに窮屈な生活を送ってしまっていたと気付きました。活動を重ねると、こうしたらもっと楽しめるかな？とか気持ちに余裕が出てきて、少しずつ「あそぶ」ということが、分かってきたような気がします！
- ・みんなのアイデアを持ち寄り、手作りおもちゃや遊びをしていること。
- ・準備をして決まった時間(10時まで)に決まった場所(ぶれいおん、はぐくーむ)に行く。幼稚園入園前に親も子どもも時間を意識して行動する練習ができた。
- ・にじっこでは危ないこと以外自由に遊ぶことができるので、子どもがいきいき遊んでいる様子が見られて、来てよかったなといつも思っています。秋の森で遊んでいるとき、去年は落ち葉

の山に触ろうとしましませんでした。今年は体全体に葉っぱをかけて楽しんでいて、にじっここのみんなからいい影響を受けているんだなあと改めて感じました。

・焼き芋をしたり、お琴を作ったり、クリスマス会をしたり、色々なことが体験できて楽しかったです。その一方で、私が大人と話す時間が長く、子ども達と遊んだり、観察する時間が短かったことが反省です。

・やっぱり、はぐく一む最高です！色々な植物を見たり触ったりして、自然を感じる力を養う事ができると思います。大人も、きっと子どもも癒される～



親のための学び合い

- ・日々が流れていく中、立ち止まり、振り返り、前も見て、自問自答。メンバーの意見も聞き、また深く学べる、月に一度の貴重な機会。吐き出す場がなかった日々のことを話せたり、教材を使用することで日頃のにじっこ活動のことを更に理解できる。サポーターが場をサポートしてくれるのも有り難い。
- ・母たちみんなで意見や思いを出すことで、より深くみんなの理解が深まる気がする。
- ・自己肯定感のトピックの時にいろいろ振り返れてよかったです。
- ・学び合いの内容はもちろん勉強になりますが、大人だけでゆっくり話す時間がリラックスタイムになるし、大切な時間だなあと感じました。
- ・他のお母さんの悩みや意見を聴くことで、自分の子育てを見直すいい機会だった。テキストをヒントに活動を充実させることができた。
- ・子どもの遊び観察のとき、自分以外の視点で見るとまた違った子どもの様子、いいところ、遊びの好みを知ることができ発見が多かったです。
- ・まいこちゃんの食育の回、テーマを絞って話すより深掘りできて楽しかったです！
- ・一人で育児に向き合っていると、視野がどんどん狭くなっていくので、学びの時間を持つことはとても貴重だと思います。
- ・あまり参加できてないが、後日まとめてしてくれたものは毎回必ず読んでます。

月	テーマ	担当サポーター
4月	子どもの安全と衛生	宮田 真理子
5月	プレイセンターの理念	宮田 真理子
6月	自己肯定感について	宮田 真理子
7月	日本におけるプレイセンター	宮田 真理子
8月	子どもの観察実習	宮田 真理子
9月	リーダーシップについて	能登 綾香
10月	プレイセンターのあそび	宮田 真理子

11月	やってみたいあそびを考える	宮田 真理子
12月	食と家事について	織田 麻衣子
1月	子どもの権利	宮田 真理子
2月	ラーニングストーリーを書いてみよう	宮田 真理子
3月	「めでたいな会」実施により、学び合いはお休み	



日本プレイセンター協会のテキスト



▲月に一度の「親のための学び合い」

子どもと離れ、自分のための時間です
 (2グループに分かれて、みんなで話合いあいます)

協働運営

- ・無理なく取り組めたと思います。来る頻度や温度感がそれぞれ違う部分があることもあるので、そこはみんながみんなのことを理解しようということは必要かと思います
- ・私は子育てを経験するまで、プライベートではあまり積極的に人と関わろうとしない性格でした。ですが出産後、ひとりで子育てするのがしんどかった時、にじっこを通していろんな年代のたくさんの人にたくさん助けられました。人に声をかけたり、企画したりするのは苦手だなあ、とまだまだ思ったりしますが、助けられた分、自分にできることを手伝えたらと思っています。
- ・1人が持ち寄ったアイデアをみんな楽しんで協力して実現しようとしてくれるウェルカムな雰囲気がとても良いと感じます。
- ・自分の発想が乏しいのか、遊びの企画を考えるのが難しいと感じる部分がある。昔に前にどんな遊びを企画したのかと、アイデアとして知れると広がるかも。
- ・力むことなく、親も楽しむ！
- ・自分も運営に関わることができ、よりにじっこへの愛着がわくなあと感じています。
- ・やりたい事やできる事を一人ひとり、協力してできていたように思います。みんな色々ありがとうございます！
- ・遠方（神奈川）ですが、にじっこ総会に参加させてもらいました。普段、活動に参加できないのですが、総会でメンバーの感じていることに共感ができたり、子育てへの想いを聞くことができてよかったです。にじっこがみんなにとってかけがえのない場所なんだと、感じられたのもすごく嬉しかったです。そして冒頭に「母の最近の好きなこと」を話すのもいいですね！メンバーの意外な部分？がわかるのも楽しいです。
- ・無理なく、をベースに、企画したり運営に参加したりするとわくわく感が全然違ってくるし、色々な方と関わるととても刺激的！それぞれのやり方、個性を活かして主体的に関わってもらうには…？思い込みを取っ払って、積極的な声掛けが必要なのかも。私にはまだまだ難しいところですが、とりあえず楽しい、心地いいのがとても大事だと思っています！



◀ 月に一度の代表会

(3人チームで春・夏・秋・冬と4ヶ月ごとに交代)
その時のチームの状況や個性に合わせて、柔軟に取り組んでもらっています。
自分のやってみたいことを、みんなの力を借りて、肩の力を抜いてやってみる経験の場にもなっています。

「うまくいくか不安だったけど、やってみたらみんなが協力してくれて、大丈夫だった」等ママの声もありました。

無理せず、できることをできるときに。「一人でしない、一人にしない」「正解を求めず、対話をしよう」がモットーの協働運営です♪

メンバーによるパネルシアター▶

お昼ご飯の前の絵本タイム。
ママの好きなことを活かして、絵本を読んでもらったり、お話をしてもらったりしています。



◀ 北明やまざと幼稚園の視察

「コーナーあそび」のあそび環境や、子どもとの関わり方について、村椿園長先生からお話を伺いました。

あそびを通して自然と指先を使う工夫や、お友だちと自然に関わりが生まれるような工夫など、一見しただけでは分からない工夫をたくさん学ぶことができました。



土曜にじっこ(NEW!)2025年11月スタート

- ・幼稚園に入るとなかなか参加することが難しくなるので子どもと一緒にまた参加できて嬉しいです。先日参加した時のホットプレートを使ったお料理とても楽しかったです。参加年齢が少し上がるので普段のにじっこではできないお料理や実験ができればいいなと思います。
- ・すごくいい試みですね！休日をどう過ごそう・・・と考えることも多かったので、土曜日にじっこは救いになりますね。平日会えない幼稚園の子に刺激をもらえたり、パパの参加も増えそうなの？
- ・料理の会は子どもも楽しそうだった。
- ・まだ参加出来てないです。料理とか楽しそう。
- ・お父さん方も気軽に参加できるようになったら楽しそう。
- ・パパの参加求ム！
- ・普段は幼稚園で参加できないので、土曜にじっこには出来るだけ参加したい 小さな赤ちゃんから元気な幼稚園組まで同じ空間で過ごすので、ケガや事故には気をつけたい。
- ・支援センターなどが開いていない土日に行く場所があるというのがありがたいです。冬の公園で遊びたいです。土曜にじっこじゃなくても・・・そりすべり、かまくら・でかい雪だるま作りしたい。
- ・久しぶりに会える仲間がいて嬉しいです。また、異年齢の関わりも増えて、普段のにじっことはまた違う雰囲気です。
- ・遊びはもちろんですが、“親の学び”や“最近どお？”もやりたいです。
- ・土曜にじっこに参加したにじっこ卒業ママから、とても良かったとお話を聞きました。機会があればぜひ参加したい！



▲土曜にじっこのクッキング体験

土曜は少し大きい年少さん～年長さん、小学生の参加もあるので、あそびの幅も広がっています。



▲小学生や中高生と赤ちゃん、幼児との出会いの場

赤ちゃんや幼児と触れ合う経験のないまま、大人や親になる人がほとんどをしめる現代。学校がお休みの土曜や長期休みなどを利用して学生が参加し、貴重な異年齢交流の場にもなっています。

その他（自由記述）

- ・子どものためにと入会したが、学び合いやみんなとの触れ合いが自分のためにもなっています。
- ・こうしなきゃ、より「子どものしたいこと」を応援できる環境があることに感謝です。
- ・危ないこと以外は否定をされない環境で、母もすごくのびのびと子どもを見てられる良い環境だと思います。いつも1人で子どもと過ごし、母が人として息抜きできる気がします。
- ・今まで支援センター等は利用していて、育児が孤独とまでは思っていなかったけど、仲間ができた(勝手に思っているだけ)、と思えたのは初めてでした。一緒に過ごす時間と、一緒に運営していくという気持ちがあるからなのかなと思います。そして、そのメンバーの気持ちが、また新しく入ったメンバーにも優しく温かく向けられていて、この先もずっと受け継がれていけばいいなと思います！
- ・母子ともに成長させていただいた場所。子育ての不安や悩みを共有したり、子どもたちの成長と一緒に喜びあったりできる仲間の存在が本当にありがたいです。息子も異年齢の子、他のお父さんお母さんとの関わりを通じてたくさんの事を学べたと思う。
- ・ふれいおんに着いた時と帰るときいつも事務所の方がお出迎え・お見送りしてくださり、まるで実家に帰ってきたような安心感があります。第二のホームです😊
- ・お琴を作ろうという企画、ステキだなと思いました！子ども目線だけではなくて、ママの好きなことも、子どもも巻き込んでみんなで楽しくやってみようというの、いいですね。
- ・にじっこが、いつの時代も子どもにとって、親にとって居心地のいい居場所でありますように願っています。
- ・参加できてはいませんが、親子での学びを写真や様子から学ばせていただいています。土曜ができたのでぜひぜひ参加したいです。
- ・久しぶりに参加しましたが、その時その時のお母さん達の個性が光って、助け合う気持ちがあって、ああやっぱりにじっこ最高ー！と思いました。（遠方会員）



◀年に一度の「まとめのふりかえり会」

子どもの居場所+自分(ママ)の居場所として心の
拠り所になるような時間に。縁あって出会えた
仲間なので、お互いのことを知っていただけら
いな、そんな思いで場を設けています。

下記の問いに、ひとり一人自分のペースでお話
してもらいました。

- ①自分の好きなこと
- ②にっこに入ったきっかけ
- ③今感じていること
- ④今後やってみたいこと

松岡公代先生による子育て相談会 ▶

幼児教育の専門家として、ママの気持ちに
寄り添って話を聴いてくれる松岡先生。相
談会は個別相談ではなく、小グループで開
きます。他の親の悩みごとや考えを聴き合
うことも、大切な成長の機会になっていま
す。



◀お琴が趣味のママによるお琴のおもちゃ作り

にっこでは、「ママの好きなこと」も大切に
しています。「そういえば、自分の好きなこと
なんて、ずっと忘れてた」と話すママも少
なくありません。

「(子どもの名前) ちゃんのママ」じゃ
なくて「(ママの名前) ちゃん」と呼
び合える関係も、ママたちにとって
貴重な場所です。



発行・編集

2026.4月発行

認定 NPO 法人子ども文化のひろば
ふれいおん・とかち

〒080-2470

北海道帯広市西20条南5丁目 18-2

Tel/Fax 0155-36-0560

(平日/第2土曜 10時-15時開所)

Email. info@play-on-tokachi.net

LINE @playontokachi

HP <https://www.play-on-tokachi.net>